

全国選抜小学生プログラミング県大会

学んだ技術で郷土PR

入賞者・チーム

「実はこんないい所、栃木県」
 栃木県博士(下野 国分寺小)
 6年 高山 莉樹、3年 高山 悟央



大好きな栃木県の「オススメ情報」を伝える作品。地図上のマークをクリックすると、兄弟で調べた益子焼やギョーザの情報が表示される。ミニゲームの要素を取り入れ、楽しみながら栃木を知ってもらえるよう工夫した。

「もっと良くなる私達の町」
 SMILE(宇都宮 作新学院小)
 5年 保坂 理緒奈、西野 桂生、久保田 剛羽



みんなにごみ問題を考えてもらおうゲーム。職業で難易度が違う栃木の問題に正解すればお金が増え、レベルが上がると自分だけの町をつくることができる。間違えればごみと借金が増え、ごみ処理の大変さも学ぶことができる。

「お年寄り用バスコース」
 お年寄りチーム(宇都宮 平石中央小)
 4年 吉田 聖菜、茨城 凛人、柏木 瑛太、中園 綾乃



使用する人の年齢などに応じた利用する施設の違い、速度や停車時間などを考慮して、模造紙上の「自分たちの街」でロボットカーのバスを走らせるコースを設定。特にお年寄りの気持ちに寄り添ったプログラムとした。

「天気コントローラーとこん虫ボール」
 松本 陽希(芳賀北小3年)



おいしい農作物を安定して生産するため、遠隔操作で田畑ごとの天気や気温を調整するプログラム。「こん虫ボール」は農作物に付いた虫を捕まえ、「ふれあいかんさつドーム」に運ぶことで虫を保護し、触れ合うことができる。

「TKCとちぎプログラミングアワード」全国選抜小学生プログラミング大会栃木県大会(下野新聞社ほか主催、株式会社TKC特別協賛、県教委など後援)が昨年12月12日、宇都宮市駒生1丁目のとちぎ青少年センター多目的ホールで行われた。出場8組が「もっと好きになる、わたしのまち」のテーマで作成したプログラムを発表し、鹿沼市北押原小6年の鈴木汰芽君(12)の作品「とちまる、ミヤリー、ベリーちゃんと巡る」がグランプリのTKC賞を獲得した。

鈴木君は、3月21日に東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される全国選抜大会(全国新聞社事業協議会主催)に本県代表として出場する。

大会は、プログラミングによって社会を生き抜く思考力・行動力・プロデュース力を含めた総合的な「人間力」を育成することを目的に開かれた。

応募総数33組から1次審査を通過し入賞した8組が、3分間の持ち時間で「実はこんないい所、栃木県」「お年寄り用バスコース」など自慢のプログラムを発表。発想力、表現力、技術力の観点で審査した結果、鈴木君の作品がグランプリに輝き、審査員特別賞には宇都宮市清原中央小5年の阿久津陽向君(11)の作品「ゴミが落ちていない町」が選ばれた。

グランプリ TKC賞

鈴木 汰芽(鹿沼 北押原小6年)

「とちまる、ミヤリー、ベリーちゃんと巡る 栃木県クイズ旅」

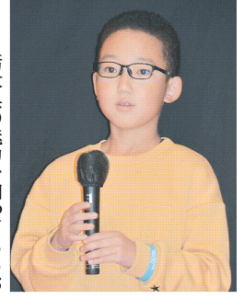


鈴木汰芽君の作品の一場面

楽しめる工夫随所に

栃木県の魅力を知ってもらおうと制作したプログラム。県内各地を巡って、キャラクターたちが活躍する鹿沼市の彫刻屋台や日光市の華厳の滝など、当地3択クイズに正解すると、解説を聞くことができる。

とちまる君にこだわって、口寄せを使ったり、場所移動時に



特技「とちまるのテレポーテーション」の音を想像して入れるなど、随所に楽しめる工夫を凝らしている。

大きな声で、高々と指を突き上げるなど元気いっぱい発表。途中、動作環境の問題で音が出なくなるとアクシデントがあったものの落ち着いて対処し、プログラムの完成度とともに表現力が高く評価された。

【審査員長講話】5年生からプログラムを勉強してきて、大会があることを知りぜひ挑戦したかった。何度も作り直し、素材集めに苦労したが、グランプリになったのでやって良かったと思う。全国大会での目標は「やり切る」。多くの人に、栃木の良さをPRしたい。

阿久津 陽向(宇都宮 清原中央小5年)
 「ゴミが落ちていない町」

授業でごみの問題を調べたことから、ごみのないきれいな町を目指し、道路上のごみを赤外線センサーで見つけて拾い集める収集車を作った。ラインをトレースして街を巡回し、集積場で捨てるまで全て自動運転で行く。

【阿久津陽向君の話】発表される時に心の準備ができていなかったため、審査員特別賞と聞き驚いた。とてもうれしい。来年は絶対に優勝したい。



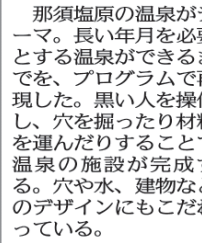
審査員特別賞

岡野 亮(宇都宮 城東小6年)
 「Strawberry Catcher」



ロボットを使って、本県の名産品・イチゴの農家の人手不足解消を狙ったプログラム。センサーで色を識別し、赤く熟したイチゴだけを収穫する。フリーで動くアームが、大小のイチゴをつぶさずに摘み取ることができる。

住友 琉惺(那須塩原 三島小6年)
 「温泉が出来るまで」



那須塩原の温泉がテーマ。長い年月を必要とする温泉ができるまでを、プログラムで再現した。黒い人形を操作し、穴を掘ったり材料を運んだりすることで温泉の施設が完成する。穴や水、建物などのデザインにもこだわっている。

審査員長講話

アイデアの改良挑戦を



川島 芳昭 教授

出場した皆さんのアイデアはどれも素晴らしく、甲乙つけがたいものでした。賞に選ばれたのは、発表の際の声の大きさや笑顔などささいなところの差で、来年はだれが優勝してもおかしくないと思います。

上位2人の作品はいずれも見事なプログラムでした。ごみ問題という一般的な題材に焦点を当てた阿久津君に対し、名所を紹介して栃木県の良さを具体的にアピールした鈴木君の作品が、より「もっと好きになる わたしのまち」というテーマに合致しておりグランプリに選ばれました。

作品の中には、頭の中の構想にとどまっていたものもありました。一部だけでも具体化し、もう少し目に見える形になっていけばいいと思います。これで終わりにせず、ぜひ改良を重ねてください。

プログラムは課題解決の道順を考えると、イノベーションの基礎です。これからの社会においてその習得は必須になりますので、皆さんが取り組んでいるのはとても価値あることです。これを機に一層挑戦を続け、より良いプログラム、より良いまちづくりを目指して学びを深めていってください。

TKCとちぎ プログラミングアワード

全国選抜小学生プログラミング大会栃木県大会

主催：下野新聞社 全国新聞社事業協議会

特別協賛



協賛



後援：栃木県、栃木県教育委員会、栃木県小学校長会、株式会社共同通信社、栃木県経済同友会、未来の学びコンソーシアム、経済産業省